

トカプチの風

令和2年5月27日発行 第7号

保護者と子どもの「対話」が育てる自己理解

学校の臨時休業・分散登校が続くこんな時だからこそ、お子様と対話をしてみませんか。対話が生徒の自己理解を促し、生徒と社会とのつながりを意識させることができれば、学校が通常どおり開始された際の学びのモチベーションにつながります。ここでは、高校生だけではなく、中学生の進学試験（面接等）にとっても有効な活動用シートを紹介します。



(保護者から生徒へ)	(生徒から保護者へ)
対話を促す自己分析シート (大樹高校「進路のしおり」から)	対話を促すジョブインタビューシート
1、質問表に自分の回答を記入する。 2、回答に対して保護者から質問を加えて自己理解を促す。	1、質問が記入されたインタビューシートを持たせる。 2、シートに沿って生徒に質問させ、保護者が答える。
<p>「得意なもの」「不得意なもの」「頑張ってきたこと」「好きな本や映画」「長所と短所」などシンプルなものであると、生徒も回答しやすく、保護者の方も追加の質問がしやすくなります。肯定的なやりとりが重要となります。</p> <p>http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ky/kk/jikobunseki.pdf</p>	<p>「仕事名」「仕事内容」「仕事のやりがい」「その仕事にふさわしい人とは」「まとめ」といった質問を、生徒が保護者にぶつけます。生徒はインタビュアーを装うため、新鮮な気持ちで楽しく質問し、回答をメモすることができます。保護者の皆様、社会の厳しさや仕事をすることの醍醐味を語ってあげてください。</p> <p>http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ky/kk/jobinterview.pdf</p>

※各シートは、十勝教育局のWebページからダウンロードできます。

小学校から高校まで一貫したキャリア教育を行っている大樹町にある大樹高校の門屋祐二先生にお話を伺いました。大樹高校は、北海道教育委員会「就職指導の改善に関する研究」の指定を受け、生徒の就職指導に力を入れている高校です。「肯定的な自己理解を深めるためには、上に掲載されているようなワークシートに情報を埋めるだけでは足りません。シート等を用いた肯定的な『対話』が必須です。」

保護者：短所は何ですか？

生徒：飽きっぽいところだと思います。

保護者：それはどんな時に感じましたか？

生徒：勉強をしていますが長続きしないんです。

保護者：そうですね。でもその短所って

「多くのことに好奇心が旺盛」と言い換えられるよね。

生徒：そうかもしれません。

保護者：自分の好奇心のあるものに、順位を付けて整理をしてみよう。

活動から得られる効果

- ・ 思いや考えをはっきりと自覚するための言語化能力
- ・ 今の学校での学びと将来とのつながりへの気付き
- ・ 普段とは違う保護者の様子から生徒が感じる大人への憧れ